

平成 22 年度予算について

3月26日(金)開催の第108回評議員会及び第206回理事会において、学校法人金沢医科大学の平成22年度収支予算案が承認されました。

平成22年度事業予算の特徴は次のとおりです。

本学では未来の大学づくりを目指し、平成22年度からグランドデザインとして校舎施設の再整備を進めます。本年度はアナトミーセンターの移設と解体、旧CT棟及び旧RI棟の解体があり、来年度以降の数年間で病院本館の機能移転と解体を行う予定です。

しかしながら本学を取り巻く経営環境は、医学部の定員増による競争環境の激化、円高不況による寄付金、資産運用収入等の減少、医師・看護師不足による医療収支の悪化など非常に厳しいものがあります。また、このグランドデザインは、いわば増収なき設備投資であり、しかも建設費や機器更新費のほか、施設の解体費用や処分損が重なり、グランドデザイン完成まで支出超過の状態が続くこととなります。

このような厳しい経営環境の中、平成22年度予算では、受験生の確保や医師国家試験の合格者数及び合格率の向上につながる教育、研究事業を更に推進し、また開設4年目となる看護学部 of 円滑な運営を目指し、必要な教育研究費予算や設備予算を盛り込みました。

病院部門では、いわゆるH22年問題(看護師不足)の対策予算や就業環境改善のための予算を盛り込みました。

さらに、機器施設整備やシステム開発等の政策予算として今年度は総額21億6千万円を計上しました。また、指定管理者3年目を迎える金沢医科大学氷見市民病院については、引き続き円滑な管理運営を行うための必要な予算措置を講じました。

1. 消費収支予算の概要(表1)

(1) 収入面では、学生生徒等納付金に平成21年度予算に比べ(以下、前年比という)1億9千4百万円増の49億5千5百万円を計上しました。

寄付金は、教育振興資金寄付金、学術振興基金寄付金ほかで7億1千万円を計上、補助金は12億4千3百万円を計上しました。

医療収入は診療報酬のプラス改定を見込み、前年比2億9千5百万円増となる177億4千万円を計上しました。入院収入は、稼動病床数を823床、病床利用率を85.0%、診療単価を51,700円として算定し、前年比1億8千6百万円増となる132億円を計上しました。また、外来収入は、診療単価を13,700円、一日平均患者数を1,130人と見込み、前年比1億9百万円増となる45億4千万円を計上しました。

以上による、帰属収入の合計は、前年比1億2千2百万円増となる253億2千万円を計上しました。

(2) 支出面では、人件費総額で前年比2億2千万円の増となる119億6千万円を計上しました。平成22年度問題に対応するための看護師確保並びに教育充実と医療収入増加のためのスタッフ増員等を含めて計上し、帰属収入に対する人件費比率は、47.2%となる見込みです。

教育研究経費には、医学部及び看護学部の国家試験強化対策、国際交流の推進、大学院及び総合医学研究所を核とする研究事業推進経費を含め、14億8千1百万円を計上しました。

医療経費は医療収入の増加に伴い、総額88億5千7百万円を計上しました。薬品費等医療

直接材料費の医療収入に対する割合を35%で計上し、医療収益の向上を図るものとしています。また、医療経費の医療収入に占める割合は49.9%となる見込みです。

資産処分差額を含む減価償却額等については、グランドデザイン事業の実施に伴う現アトミーセンター、旧CT棟及び旧RI棟の解体及び撤去、学生クラブハウスの一部解体による処分差額が加わるため、前年比1億2千5百万円増となる27億8千5百万円を計上しました。

予備費については、前年度と同額の5千万円を計上しました。

以上による消費支出の部合計は、前年比6億2千6百万円増の256億1千6百万円となる見込みです。

- (3) この結果、帰属収入の合計253億2千万円から、消費支出の部合計256億1千6百万円を差引いた平成22年度の正味財産増加額は、2億9千6百万円の支出超過となる見込みです。

2. 資金収支予算の概要(表2)

- (1) 収入面では、諸事業の円滑な遂行を図るため、金融機関からの短期借入金10億円を計上しました。また、学校債収入として3億5千万円を計上しました。

- (2) 支出面では、借入金等返済支出に、短期借入金返済分10億円と学校債の償還分4億円を合わせて14億円を計上しました。

施設関係支出には、医学部講義室整備事業、アトミーセンター建設事業、特別高圧2回線化受電設備整備事業及び学生クラブハウス移転改修事業ほかで、合計10億4千5百万円を計上しました。

また、設備関係支出には、クリニカル・シミュレーション・センター整備事業、共同利用研究機器整備事業、病院医療機器整備事業などで、合計5億6千5百万円を計上しました。

資産運用支出は、グランドデザイン事業の実施に資するため、施設拡充引当特定資産に7億円を繰り入れました。

- (3) 以上の資金収支計算の結果、平成22年度末の次年度繰越支払資金は、42億6千1百万円となる見込みです。

3. 金沢医科大学氷見市民病院運営事業予算の概要(表3)

- (1) 収入面では、医業収入及び医業外収入で44億9千5百万円を計上しました。入院収入は、一日平均患者数を160人、診療単価を41,500円として算定し、24億2千4百万円を計上しました。また、外来収入は、診療単価を11,700円、一日平均患者数を510人と見込み、17億4千2百万円を計上しました。医業外収入は氷見市からの交付金で3億8百万円を計上しました。

- (2) 支出面では、医業費用及び医業外費用で44億8千4百万円を計上しました。給与費は、教員(医師)を35名、職員を295名として算定し、23億8千2百万円を計上しました。材料費は薬品費や医療材料費、給食材料費等で12億9千6百万円を計上し、その他の経費として光熱水費1億9百万円、管理経費7千5百万円を含む7億2千8百万円を計上しました。

- (3) 以上による平成22年度末の経常利益は、1千1百万円となる見込みです。

- (4) 本学は、指定管理者として氷見市民病院の管理・運営を開始してから3年目となりますが、引き続き診療体制の整備、収益増加対策、教育・研修体制の充実を図ります。また、平成22年度は、中期事業計画のもと4月には新病院の建設工事が着工される予定です。

(経理管財部長)

消費収支予算書
 (自)平成22年4月1日
 (至)平成23年3月31日

(表1) (単位:百万円)

収入の部			支出の部		
科目	金額	前年比	科目	金額	前年比
学生生徒等納付金	4,955	194	人件費	11,960	220
手数料	147	10	教育研究経費	1,481	51
寄付金	710	20	医療経費	8,857	203
補助金	1,243	180	管理経費	478	27
資産運用収入	200	153	借入金等利息	5	0
事業収入	265	4	減価償却陥等	2,785	125
医療収入	17,740	295	予備費	50	0
雑収入	60	0			
帰属収入の合計	25,320	122	消費支出の合計	25,616	626
			(正味財産増加額)	(296)	(504)
基本金組入額	500	0			
消費収入の合計	24,820	122	消費収支差額	796	504

(注) は計算書式上のマイナス値 はマイナスを示します。
 前年比は平成21年度予算との比較です。

資金収支予算書
 (自)平成22年4月1日
 (至)平成23年3月31日

(表2) (単位:百万円)

収入の部			支出の部		
科目	金額	前年比	科目	金額	前年比
学生生徒等納付金収入	4,955	194	人件費支出	11,960	220
手数料収入	147	10	教育研究経費支出	1,481	51
寄付金収入	700	20	医療経費支出	8,857	203
補助金収入	1,243	180	管理経費支出	478	27
資産運用収入	200	153	借入金等利息支出	5	0
事業収入	265	4	借入金等返済支出	1,400	100
医療収入	17,740	295	施設関係支出	1,045	481
雑収入	60	0	設備関係支出	565	438
借入金等収入	1,350	150	資産運用支出	700	350
前受金収入	3,110	232	その他の支出	2,926	19
その他の収入	3,482	536	予備費	50	0
資金収入調整勘定	6,407	472	資金支出調整勘定	2,500	100
前年度繰越支払資金	4,383	127	次年度繰越支払資金	4,261	210
資金収入の部合計	31,228	197	資金支出の部合計	31,228	197

(注) は計算書式上のマイナス値 はマイナスを示します。
 前年比は平成21年度予算との比較です。

金沢医科大学氷見市民病院運営事業予算
 (自)平成22年4月1日
 (至)平成23年3月31日

(表3) (単位:百万円)

収入の部	
科目	金額
医療収入	4,187
(入院収益)	2,424
(外来収益)	1,742
(受診事業収益)	14
(施設設備利用収益)	7
医療外収益	308
収入の部合計	4,495

支出の部	
科目	金額
医療費用	4,484
(材料費)	1,296
(給与費)	2,382
(その他の経費)	728
(指定管理者負担金)	78
医療外費用	0
支出の部合計	4,484
経常利益	11